

広報

九州

令和4年8月10日

(2022年)

No.1806

九州森林管理局

〒860-0081

熊本市西区京町本丁2-7

IP電話:050-3160-6600(代表)

<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/>



国民の森林・国有林

「特定非営利活動法人 奥雲仙の自然を守る会」 が美しいの森づくり活動 コンクールで林野庁長官 賞を受賞

〔長崎森林管理署〕

長崎県雲仙市の田代原風致探勝林などで活動する「特定非営利活動法人 奥雲仙の自然を守る会」（会員34名）は、一般社団法人全国森林レクリエーション協会主催の第34回森林レクリエーション地域「美しいの森づくり活動コンクール」において、景観の保全・向上のための森林整備や利用者への利便性、安全性確保のための施設整備活動が高く評価され、この度、林野庁長官賞を受賞されました。本来であれば東京で開催される同協会の総会で授賞式が行われる予定でしたが、コロナウイルス感染症の蔓延防止を考慮し、7月13日に同会事務所での授与となりました。当日は、九州森林管理局の川戸英騎業務管理官から中田妙子代表へ林野庁長官賞の賞状と副賞が贈呈されました。



雲仙田代原レクリエーションの森をバックに記念撮影

同会は平成17年に設立され、「ミヤマキリシマが咲く放牧草原」環境を含む景観の維持、向上のための自然環境保護活動、遊々の森（奥雲仙牧場の森）および雲仙田代原レクリエーションの森をフィー



小学生を対象とした森林教室

ルドとした森林教室や植樹活動等の自然教育活動を行っています。同会の活動は、参加者・利用者から大きな賛同を得ており、地域住民からは「昔のような放牧草原を再び見ることができて嬉しい」といった喜びの声をいただいています。また、長崎森林管理署とのコラボで長崎大学環境科学部の学生さんを対象とした自然体験活動や環境省が主催するパークボランティアによる保全活動を年2回、サポーター制度による樹名板設置と下刈の実施など国・県・市・企業・大学などが協力し一体となって放牧草原の維持と環境保全を行っています。



大学生を対象とした環境フィールドスクール

今年度は、新たに昆虫学者による生き物観察会のイベントを実施するなど新たな活動にも取り組み、よりレクリエーションの森としての魅力を高めるとともに、これまで行ってきた活動も継続していくことで、さらなる利用促進やミヤマキリシマの咲く放牧草原環境の向上に努めています。長崎森林管理署としても同会のサポートや田代原風致探勝林での修景伐採及び案内看板設置等の事業に尽力していきます。

令和4年度 第1回国有林材供給調整検討委員会を開催

6月29日に、本年度第1回目の「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。

各委員がそれぞれの専門分野からの意見を述べあい、「引き続き、民有林の出材状況、原木価格の動向、工場等の原木仕入れ状況、木材製品の価格などの状況を注視しつつ需給バランスを見極めながら、計画的な供給に努めるべきである」との検討結果となりました。

各委員からの主な意見は次のとおりです。

○ ロシア単板輸入禁止の影響で各合板工場、他の原材料への転換というところで輸入原木の手配や国産材の集荷に力を入れていたことから、どの工場も3月～5月で在庫を持つことができた。

九州の合板工場は当社のみなのでフル生産が続いている。生産量と出荷量は毎月同じ数量であり製品在庫がたまる余裕はなく、まだまだ生産を続けていかななくてはならない。

お客様も合板の在庫はあまり持っていないので、それが貯まるまではこのまま動くのではないかと見

ている。

原木の集荷は不足なくできていたので、供給はそのまま現状を維持して欲しい。

○ チップ関係では紙の需要と別に燃料、原料ともに非常に引き合いの強い状況になっている。特に原料ではロシア・ウクライナ情勢により、ロシアのチップを使っていた製紙工場は不足状況にある。燃料については新たなバイオマス発電が始まったことと、石炭価格の高騰により海外でもPKS（パームヤシ殻）の需要が増えてきて高騰していることから、国内チップを使いたいということ引き合いが強くなっている。

中国向け輸出については上海のロックダウンの影響で現状は低調。ロックダウン明けで輸送制限がなくなりある程度丸太が動いたが港頭在庫を抱えている状況ではあるものの秋以降は動いてくると思われる、それらも含め計画的な供給を引き続きお願いしたい。

○ ウッドショック以降山林所有者さんの出材意欲は旺盛になってきているが、昨年1年では処理し

きれず順番待ちということでも民有林も順調に出材されている。

九州内は国産材比率が非常に高く、円安など海外の影響を受けにくくはあるが、輸入材の消費の多い地域などから非常に問い合わせの多いという状況である。

従来であればこの6月、7月というのは梅雨のまった中ということで製品の流通が一番滞る時期といえるが、今年の動きはそこそこのものであると感じる。

国有林ではせっかく早期発注に努めておられるので、それを活かすためにもこのまま順調に生産されることを期待している。



挨拶される矢野局長



進行を務める遠藤委員長



委員会の様子

梅雨明けが宣言されたところだが、虫害の発生が続いており、地元の製材工場は様子見の状況で、買い方も少し落ち着いてきた状況。一方、大型工場については、買い気も旺盛で量も多く買っていた。

これからの時期は毎年台風の影響で予測もできないが、変わらず安定的に供給するということが様子を見たほうがよいのではと考えている。

○ 入荷の方は1、3月と比較しても1割程度増加しており昨年と比べても3割程度増で昨年夏に発生したウッドショックの余韻が残っていて、皆さん出材が続いている状況が見て取れる。

ただ、年間10万坪を超える工場に於いては、その反動でアカマツ集成材の平角は300ミリ、330ミリ、360ミリと長尺の製品しか売れず、アカマツ集成材の在庫で苦しんでいる状況。

丸太の需要については、若干秋需もあるかと思うので、供給については現状維持でお願いしたい。

※本検討委員会の詳細は、九州森林管理局HPのキーワードの木材の供給情報の「九州森林管理局国有林材供給調整検討委員会の検討結果等について」からご覧になれます。

(担当：地域木材情報分析官)

○ 首都圏の方々に聞くと輸入材が相当入ってきているというか、予定されていた物が重なって一気に入ってきたという状況。昨年は首都圏がプライスリーダーになって高値を付けていったが今年は逆に首都圏から価格が落ちていくのではと考えている。

ハウスメーカーも大手はそれなりに受注していることで集成材は動いているが、地場中小メーカーの仕事が減少していることでグリーン材の動きが悪くなっている。

原木は宮崎の方では上げ下げなく出荷も需給のバランスがとれており、需給調整はこのままで良いと思っているが、一歩間違えたら

いつ何があってもおかしくないとも感じている。

○ 6月中旬の市では一気にヒノキの応札が止まり、話を聞くと、最近では合板をはじめヒノキ土台等でも在庫をかなり持っているとのことで、急激に丸太の入札に影響がでている。

輸出に関しては先ほどからも厳しい話があがっているが、全体的にはロットの大きいC材についてはかなり厳しくなってきた。その分が不足しているバイオマスに流れていくのではと考えている。

国有林の供給としては今のところ進めていただいている事業のま

ま調整の必要はないと考えている。

○ 今年まではこのままの価格で推移すると思われた木材価格が、アメリカの住宅金利の影響から原木の仕入れに慎重になってきている。

輸入材についても聞くと、よろと大都市圏の港は海外からの木材製品が置けないほどに在庫が膨らんでおり、日本の住宅で最も使用されているホワイトウッド・レッドウッドの3クオーターの売れ行きを見ているとオファー価格では誰も買う人がいなかったというところで3割程値引いているとも聞いている。

国有林材の供給については、今後の木材の相場、需給動向を注視していきながら、価格を維持していくためにもバランスのとれた供給をお願いしたい。

○ プレカット工場は競争が激化している。6月に入ってからは特に関東辺りでは生産量が20%程度落ち込んでいるように聞いている。

資材に関しては、九州では外材の代替として国産材をうまく利用できていて、横架材では240ミリまでの平角がスギKD（人工乾燥）、荷重があまりかからない部分については270ミリまでスギKDを使う形で外材の分野を少し国産材へ切り替えて対応しており、この一年何とか資材不足もなく乗り切れた。

民国連携してシカ捕獲に取り組む 「くくり罠（小林式誘引捕獲法） 現地勉強会を開催」

【宮崎南部森林管理署】

近年、宮崎県におけるシカの生息域は拡大しており、これまで生息が確認されていなかった当署管内においてもシカの目撃情報が相次いでおり、地域と連携したシカ被害対策を推進するため、関係自治体等とのシカ被害対策協定の締結や南那珂地区シカ侵入対策連絡会議に参画し、関係者による情報共有や合意形成等の連携を図ってきたところです。

このような中、当署においても今年度から職員によるくくり罠でのシカ捕獲を計画したところですが、実施に当たっては、新たな捕獲技術や安全に捕獲する技術・知識の習得が必要であることから「くくり罠（小林式誘引捕獲法）現地勉強会」を令和4年7月25日に開催しました。

勉強会には、当署のほか、宮崎県南那珂農林振興局、日南市、串間市、日南市有害鳥獣対策協議会、串間市有害鳥獣対策協議会、講師の九州森林管理局保全課及び宮崎森林管理署都城支署を含め総勢43名が参加しました。

勉強会では、福岡貢史署長から「小林式誘引捕獲法は捕獲効率が高く、国有林としても推奨している方法であり、民有林等においてもくくり罠でシカ捕獲を行う際の参考にしていただきたい」と挨拶があった後、保全課の長渕直企画官と田畑駿也技官から小林式誘引捕獲法の説明及びくくり罠設置の

実演、都城支署の境田政照行政専門員から安全な保定や止め刺しの仕方等について、自身の経験談等を交えながらわかりやすく講義いただきました。その後、5班に分かれてくくり罠設置の演習を行い、参加者からは、「小林式の餌の置き方やワイヤーの長さ、罠の設置箇所はどんな場所が良いのか」「止め刺し時のナイフと電殺機の使い分け」等について質問がありました。

当署は、この勉強会を機に地域と連携したシカ捕獲に取り組むと同時に民有林への普及に向けて技術的な支援を実施していくこととしております。



自動撮影カメラに写った雄ジカ



境田行政専門員による講義



くくり罠設置の見本



くくり罠設置演習の様子②



くくり罠設置演習の様子①

「低コスト造林（筋刈り）」について 現地検討会

〔宮崎北部森林管理署〕

7月29日、当署音羽山国有林2林班において、東白杵農林振興局椎葉駐在所山口雄司所長他1名、椎葉村役場農林振興課椎葉今朝志課長他3名、耳川広域森林組合椎葉支所甲斐洋敬支所長他1名、本署3名、東郷森林事務所1名、上椎葉森林事務所1名の総勢13名による「低コスト造林（筋刈り）」について」の現地検討会を実施しました。



資料による説明



筋刈り作業の説明

本検討会は、昨年末から宮崎県山口椎葉駐在所長より低コスト造林について、国有林の取り組み等を見学したいとの話がありました。が、コロナの影響で延期になっていたものが今日実現したものです。当日は台風5号の影響で、所によつては大雨となりそうな状況でしたが幸いにも検討会の間は雨も降ることなく、また蒸し暑さも少ない中での実施となりました。



筋刈り作業の様子

検討会内容については、宮崎太守森林技術指導官より挨拶があった後、東郷森林事務所引地修一森林官より現地下刈り箇所の施業履歴等の説明、続いて都賢太郎森林整備官及び高橋陽介森林整備官補から国有林で取り組んでいる「長方形植え」、「筋刈り」について資料を基に詳しい説明、その後、森林整備事業請負契約による美々津造林合資会社黒木仁司代表社員他従業員の方々に実際の筋刈り作業を実施していただきました。作業を見学する中で様々な質問、意見等が熱心に出され、参加者全員が各々検討をかさねました。最後に、宮崎太守森林技術指導官より総括があり、山口駐在所長より今回の検討会が民有林にとつ



筋刈り作業を見学する参加者②



筋刈り作業を見学する参加者①

て非常に勉強になり、また今後民有林、国有林で様々な検討会等が実施できるようなこととお願いと礼を述べられ有意義な検討会となりました。

「次世代林業マイスター養成講座」で講義

鹿児島大学高隈演習林



低コストモデル実証団地の成果を説明



様々な意見が出された演習

鹿児島大学では、昨年度より林業人材の育成を目的に、社会人を対象とした「次世代林業マイスター養成講座」を実施しています。今年度は、4クール、6月29日から11月9日にわたり鹿児島大学高隈演習林（垂水市）において、

九州および東京、千葉からの林業事業体や商社等様々な職種の新入生15名が参加しています。今年度も同大学から本局へ「主伐と再造林の課題」に関する講師依頼があり、奥村克技術普及課長と永山博美企画官（民有林連携担

当）が6月29日、30日の2日間、国有林現場からの報告や実践を踏まえた講義を行いました。講義1日目は、低コスト造林技術として熊本南部森林管理署管内に設定している「低コストモデル実証団地」の概要とこれまでの成果、2日目は、病虫害対策として「小林独誘引捕獲法」の普及など九州森林管理局が取り組んでいる「シカ被害対策」について、紹介しながら説明しました。また、各講座および演習での質疑では、ヒノキの開発品種、囲い罫のサイズなど様々な意見や質問が受講生から出されました。

本局としては、引き続き「九州森林管理局と九州・沖縄5大学（九州大学、熊本県立大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学）との連携と協力に関する協定」に基づき、積極的に協力していくこととしております。

【担当＝技術普及課】

新任挨拶

よろしくお願いします

大分西部森林管理署長

平井 郁明
ひらい ふみあき

年齢 57歳
出身地 東京都
前職 国立研究開発法人森林研究所 整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 九州育種場長

抱負 出向を含めて九州管内勤務は2カ所目となりました。全国有数の林業地である日田で仕事ができることは、非常にやりがいがあり、地域とのつながりを大切にしていく必要があると重責を担っていることを当署に来て実感しています。

この歳になっても、まだまだ未熟さを実感させられる場面ばかりですが、何よりも大事に考えているのは、職員の健康と安全の確保です。このことに加えて、山積している課題に職員の協力の下立ち向かっていきたいと考えています。そして地域林業の発展に寄与するよう努めて参る所存であります。どうぞよろしくお願い致します。



平井 郁明
ひらい ふみあき

宮崎森林管理署長



山口 輝文

やまぐち てるふみ

年齢 55歳
出身地 鹿児島県
職 鹿兒島県
前職 鹿兒島県
部長 鹿兒島県
局長 鹿兒島県

抱負 2年3ヶ月ぶりの九州勤務です。宮崎での勤務は初めてですが、宮崎県は31年連続日本一のスギ生産や大型製材工場等の稼働木材輸出の拡大など林業・木材産業が特に盛んな印象があります。また、宮崎署管内では、間伐等の森林整備に加え、一ツ葉海岸マツ林の保護や、綾の照葉樹林の保護・復元といった取組も行われています。国有林に対する期待に応えるため、これからの様々な取組を進めていきたいと考えています。

そのため、まずは安全の確保を第一に、職員が健康でやりがいを持って働ける職場作りに努めて参ります。よろしくお願いたします。



小野 正道さん

40年前、神話と伝説の町、宮崎県高千穂町に、移り住み、田舎の生活がスタートした。

大学卒業後、故郷茨城県で生活していたが、妻の故郷で、建設業を営む、父・母に、懇願され続け、決心したのだ。

その頃の建設業は、一年通して仕事がなく、給料も安く、4K・5Kその物だった。

4月から8月までは、農作業や山の仕事をしていた。下草刈り、杉の間伐をし、搬出、茶摘み、田作り(田植えや草刈)、集落の仕事(用水路補修・共有林の下草刈等)をし、工事が始まって、休日は無く、農作業や牛の世話が日課でした。

当時は、二上山標高989m、と諸塚山標高1341mを結び、六峰街道(林道)標高約1000mが開通した頃で、高千穂町(標高400m)から、接続させる為の林道工事をしていました。山の神様への挨拶をし、手作業で、杉・ヒノキ・雑木を、山師がチェーンソーで倒して玉切を行い、枝打ちと、搬出は、自分達でしていました。鎌やナタ砥ぎが出来るのも、この時に教えて頂



いた経験からです。

林業も変わりました。索道を張ってウインチで集材していた時代から、高性能林業機械へと進化しました。助成も手厚く、土木から転職した友人もいます。格好良く、高賃金で、林業に就く若者も増え、花形の職業に変わりました。

大型機械を山に直接入れる為、

山腹にジグザグに道を作り、搬出する為、山肌が荒れ、景観もさる事ながら、大雨の際、道に雨水が集まり、災害にも発展する事も増えています。

田舎では、集落単位で簡易水道組合を作り水資源を守り生活しています。先人達が、集落総出で、水源を探し、水を引いたのです。美味しい自慢の水です。

数年前に、水源地の裏手の山の杉が全伐された際は、皆で心配しましたが、味が変わった気もしています。

建設業として、40年、林道の管理路線もあり、四季を通して、落石除去、除雪等で、大型タイヤショベルで作業をしながら、景観のご褒美をいただいています。近年では毎年、宮崎県の森

林ボランティアが有り、植樹や下刈りに参加しています。

今後は、山や自然、森と生態系の課題等、モニター活動で知り得た情報を発信し、人々の関心が高まる様に、微力ながら活動していきたいと思っています。

(宮崎県高千穂町在住)



モニターの小野さん

都会の中の憩いの森

多様な植物
監視台樹木園の



177 ホソバヒラギナデク (メギ科)

明治初年にわたってきた支那(中国)原産の無毛常緑の低木で、普通の家庭の庭に庭園木として植えられています。見かけたこの花は切り花として利用されないことから果実がなるまで観察できます。



高さ1~2m程度で、幹はしう生し、細長で直立し、材は黄色、葉は有柄で互生し、奇数羽状複葉で長さ12~25cm葉柄の基部は莖となつて茎を抱き、小葉は無柄で7~9個対生し狭長披針形、先端は鋭尖頭形、先端は鋭尖形、縁には低い鋸歯があり、鋸歯の先は針状になります。葉



は革質、葉面にはやや光沢があり葉軸に節があります。秋に茎の先から数本の総状花序を出し、長さ約6cm、黄色の花が群がって咲き、花には短い柄があり、苞は小形の鱗片状で長さ1ミリくらい。愕片は9個、花弁は6個、基部に蜜線があります。おしべは6個、葯は弁によって開閉します。雌しべは1個、子房は1室、液果は藍褐色です。名前、ホソバヒラギナデクで葉が細いからです。



森林インストラクター
安楽行雄



新型コロナが初めて確認され3年目に入り最近ようやく日常に戻り始めた矢先、7月には爆発的に増え第7波入りとなりました。▼巷では1人キャンプが注目され様々な人達が自分の時間を満喫するため自然に足を運ぶ時代となった。特にキャンプのために山を購入し自分の遊び場を作る人が増加しているそうである。▼現在、山の活用として自然エネルギーの風力発電やメガソーラー発電といった再生可能エネルギーの導入が加速されており、一昔には考えもつかなかった開発が行われている。▼ここで思うことは、これは未来永劫続いていくものであるのか。山の購入、再生エネルギーによる山の開発などが一貫性のものでなく継続して活用されていくことを切望したい。そうであればこのブームが過ぎ去った後は変わらぬ自然が残されるだけであるからである。▼自然をどのような形で活用していくかは、開発を含めいろいろな選択肢があつて良いと思うが、未来の子供達にこの豊かな自然が確実に引き継がれていくことを願うばかりである。

【単】